

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 3 月 28 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 3 年
氏名	齋藤 美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
広島市安佐動物公園
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ず～なんよ。動物園大学 in ひろしま安佐
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 3 月 20-21 日 (2 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
伊谷教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本出張の目的は動物園大学@安佐動物公園でポスター発表を行うことであった。</p> <p>今回の発表では飼育の方にも親しみを持って頂けるように、野生キリンの授乳の話を選んだ。それが幸いしてか、聞きに来てくださった方々の中には獣医師の方、よく動物園に行かされている年配の方など、動物の研究には直接携わっておられない方々にお越しいただいた。また、他大学の先生にもご説明をさせていただく機会があり、追加でどのような点をデータとして示せばよりわかりやすいか、飼育だけ見ていると私が示したような野生の状況は想像しにくい、などのコメントを頂いた。私は飼育下でのキリンを観察したことがなく、その先生は飼育下でのご研究をなさっているからこそその、より具体的・有用なアドバイスを頂くことが出来、今後の研究を行う上で非常に参考になった。</p> <p>また、「動物の研究を行うにあたって、何か特別な資格がいりますか？」と高校生二人組が質問をしに来てくれたことが個人的には非常に嬉しかった。今まで高校生と触れ合う場がなかったので、このような質問を受けるのは初めてであった。しかし、自身の研究生活の研究以外の魅力的な側面を人に伝えることはいい経験となった。今後、他大学生だけではなく、中学生・高校生とも触れ合える機会が増えれば、と思う。また、そのような場を提供している動物園大学には今後も参加する価値があるとより一層感じた。</p> <p>出張の目的は「ポスター発表を行うこと」であったが、午前中の 9 つのご発表も興味深く拝聴させていただいた。特に印象に残っているのが、とべ動物園の田村さんのご講演で、おそらくコウモリを研究されていたのであろうか、コウモリに関する様々な知識をお持ちで、勉強させていただいた。また、聞いている方々にコウモリについて興味を持ってもらいたい、伝えたい、という田村さんの想いがよく伝わってきた。私も聞いていただく方を引き付ける話し方を身に付けたい、と感じるいい機会となった。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真1 講演者の皆さんとのディスカッション



写真2 ポスター会場の様子

6. その他（特記事項など）

本出張は PWS リーディングプログラムの援助を受けて実現しました。プログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。